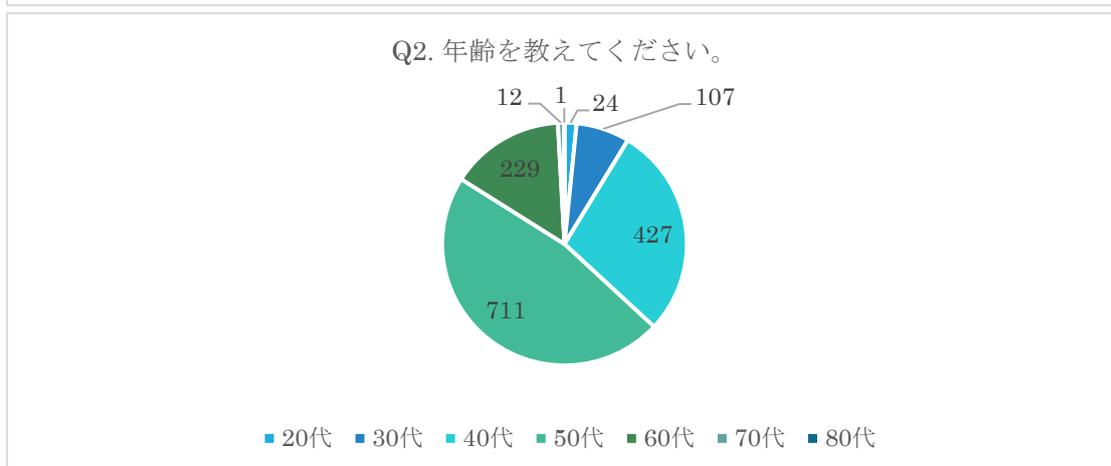
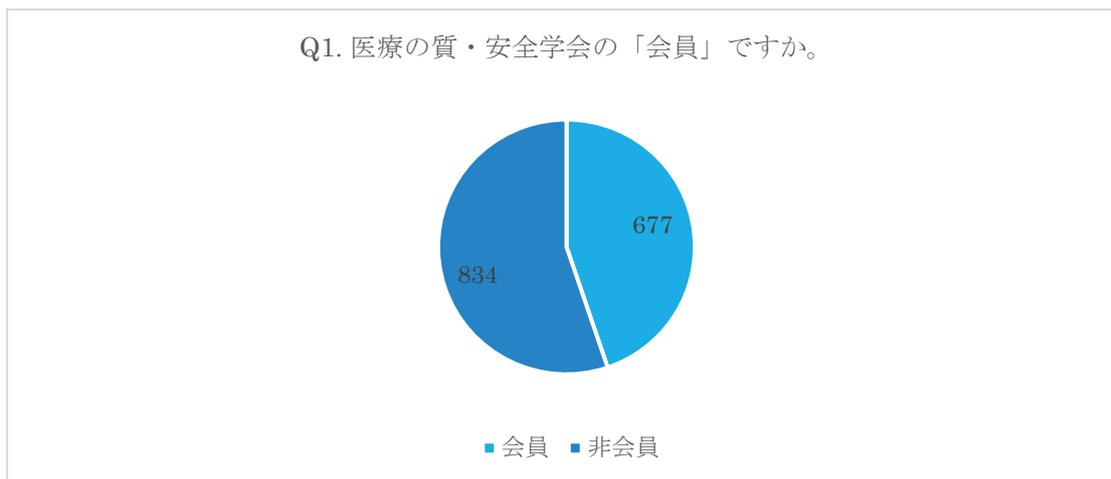


## 第20回医療の質・安全学会 学術集会 終了後の参加者アンケート

2025年11月11日～20日に実施。QR受付通過者対象にアンケートを送付した。  
ひとり2件以上アンケート回答した可能性もあるが、延べ、1511件の回答があった。

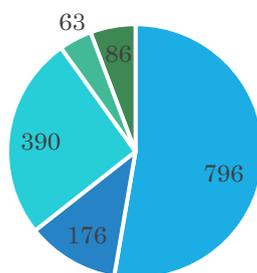
### 結果



Q3. 職種を教えてください。

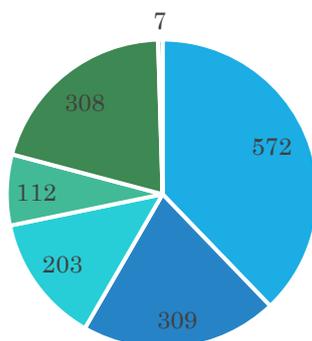
医師	172
歯科医師	1
薬剤師	121
看護師・助産師・保健師	902
診療放射線技師	24
臨床検査技師	21
理学療法士	25
作業療法士	4
視能訓練士	1
臨床工学技士	93
義肢装具士	0
歯科衛生士	1
救急救命士	0
言語聴覚士	1
管理栄養士	4
社会福祉士	2
介護福祉士	0
弁護士	4
教員・研究職	27
企業	39
事務系（医療機関等）	45
学生	4
大学院生	3
患者・家族の立場	4
その他	12

Q4. 病院の医療安全部門での勤務経験がありますか。



- 現在、医療安全部門で勤務している
- 過去に、医療安全部門で勤務したことがある
- 病院勤務だが、医療安全管理部門での勤務経験はない
- 過去に、病院勤務経験はあるが、医療安全管理部門での勤務経験はない
- これまでに病院での勤務経験はない

Q5. 医療の質・安全学会学術集会への参加は何回目ですか。

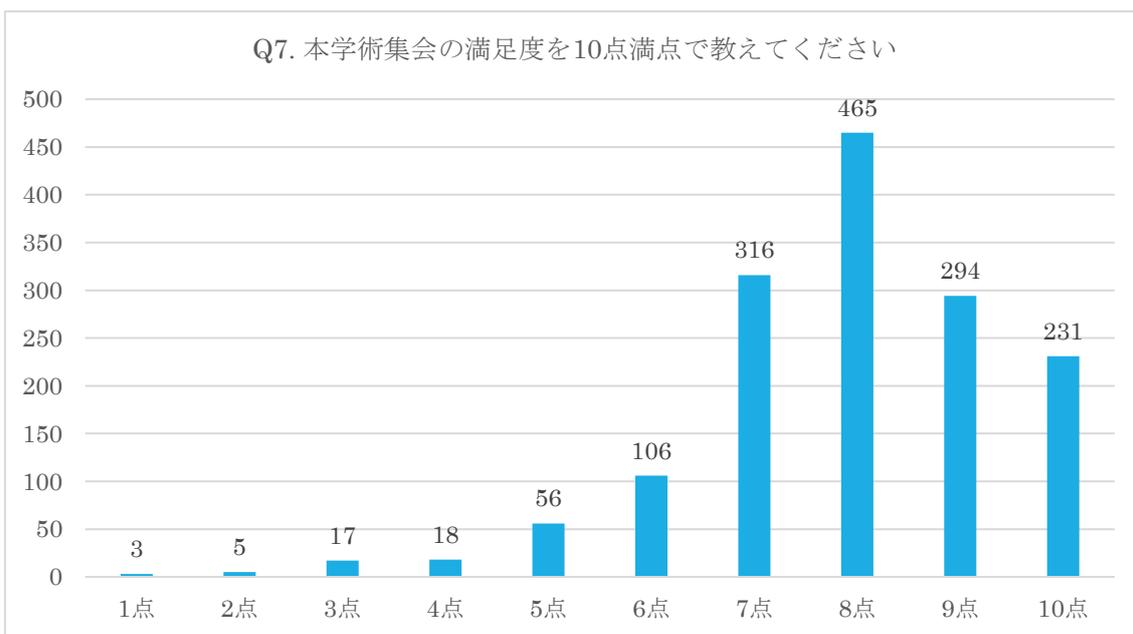


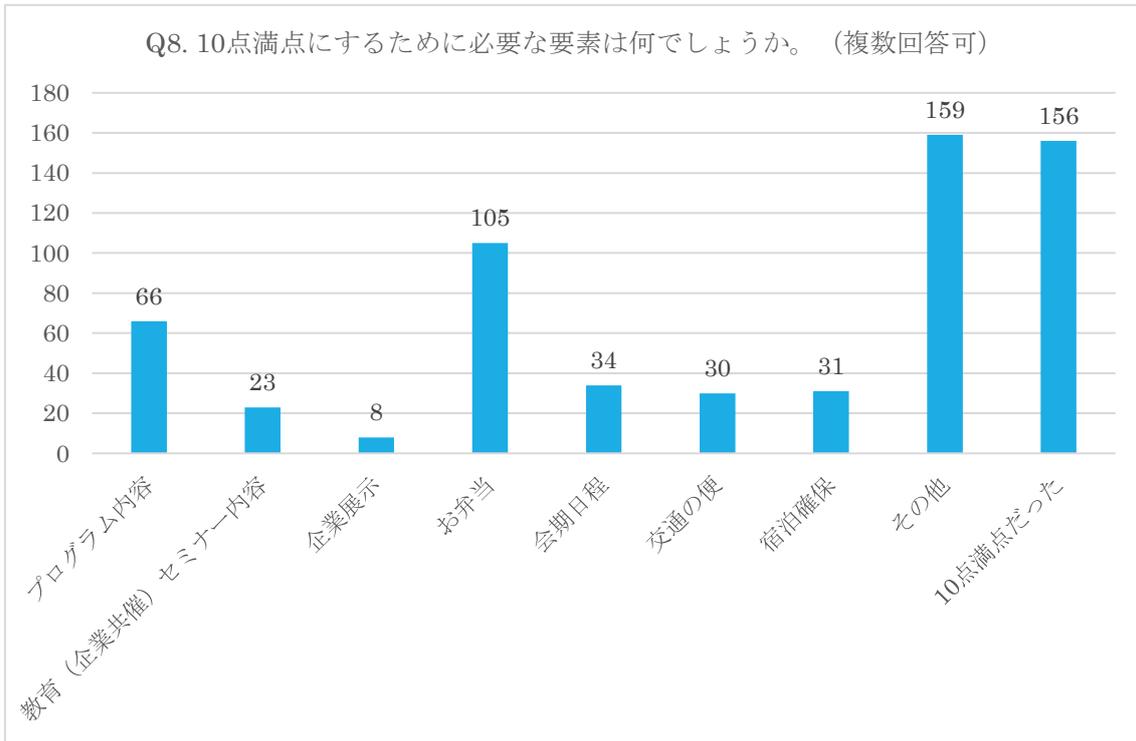
- 初めて
- 2回目
- 3回目
- 4回目
- 5回目以上
- わからない

Q6. どこから来られましたか（ご自宅）。

北海道	42
青森県	13
岩手県	8
宮城県	22
秋田県	5
山形県	6
福島県	17
茨城県	15
栃木県	20
群馬県	21
埼玉県	41
千葉県	50
東京都	180
神奈川県	125
新潟県	10
富山県	21
石川県	27
福井県	16
山梨県	11
長野県	14
岐阜県	23
静岡県	41
愛知県	122
三重県	24
滋賀県	24
京都府	122
大阪府	138
兵庫県	77
奈良県	23
和歌山県	12
鳥取県	9
島根県	10
岡山県	29
広島県	24

山口県	21
徳島県	11
香川県	12
愛媛県	8
高知県	2
福岡県	44
佐賀県	5
長崎県	11
熊本県	17
大分県	8
宮崎県	6
鹿児島県	7
沖縄県	14
International (日本以外)	3



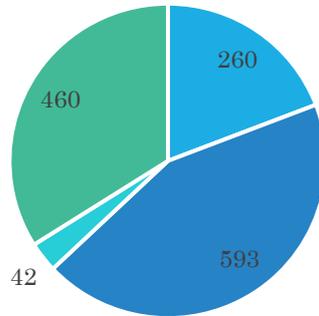


Q9. 上記を選択した理由を教えてください。(任意)

(AI: Notebook LM によるまとめ)

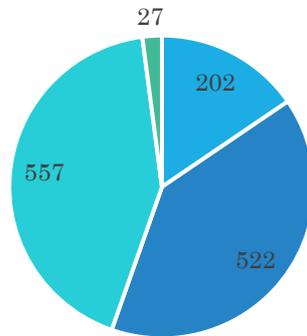
満足度の理由は多岐にわたります。まず、プログラム内容や著名な講師による講演は非常に高く評価されており、実務に直結する最新の知見が得られた点に満足する声が多く寄せられています。一方で、多くの改善点も指摘されています。紅葉シーズンの京都開催による宿泊費の高騰や交通機関の混雑、お弁当の質・量の不足 (SDGs 弁当への不満)、人気セッションでの座席不足や立ち見、そして長時間の着座による椅子の硬さなどが、満足度を下げる要因として具体的に挙げられています。このように、学術的な内容には満足しつつも、運営面や開催環境に課題を感じた参加者が多いのが特徴です。

Q10. 教育セミナーに企業協賛を得ることが難しくなりつつあります。教育セミナーについて、あなたの考えにもっとも近いものを教えてください。（任意）



- セミナーはなくてよい（フリーの休憩時間がよい）
- セミナーを聴きながら昼食をとりたい（昼食は無料で提供してほしい）
- セミナーを聴きながら昼食をとりたい（昼食は自分で購入してもよい）
- 無回答

Q11. 学会会期中の昼食の提供について、あなたの考えに最も近いものを教えてください。（任意）



- 食事の廃棄を減らすことを重視する
- 参加者の昼食を確保することを重視する
- 昼食については各参加者が考えることでよい
- 無回答

Q12. 第20回学術集会の運営上、よかった点を教えてください。（任意）

（AI: Notebook LM によるまとめ）

運営面では、会場が1施設に集約され移動が容易だった点や、迅速なQR受付、学生ボランティアの丁寧な接遇が高く評価されました。また、呈茶や着物体験などの京都らしいおもてなし、マイボトル推奨と給水器設置によるSDGsへの取り組みも好評です。内容面では、著名な講師の講演や初心者セミナー、多職種交流の場が充実しており有意義だったと

の声が多く寄せられました。

**Q13. 第20回学術集会の運営上、改善点を教えてください。**（任意）

（AI: Notebook LM によるまとめ）

運営面では、まず会場キャパシティと演題人気のミスマッチが大きな課題として挙げられました。人気セッションの座席不足や立ち見、女子トイレの深刻な不足、休憩スペースの欠如が強く指摘されています。また、「SDGs」を掲げたお弁当の質・量の不足や、椅子の硬さによる疲労、駅からのアクセスの悪さも具体的な不満要因です。さらに、専用アプリの復活や、重複する演題を視聴するためのオンデマンド配信を求める声も多く寄せられました。

**Q14. 第21回学術集会（2026年、姫路）の運営に対する提案があればどうぞ。**（任意）

（AI: Notebook LM によるまとめ）

次回の姫路大会に向けて、利便性の高い専用アプリの復活や、演題の重複を補うためのオンデマンド配信を求める声が多く挙がっています。運営面では、宿泊先の確保支援や昼食環境の整備に加え、疲労を軽減するための椅子の改善が強く要望されています。また、初心者セミナーの会場拡大や、姫路城見学といった地域性を活かした企画への期待も寄せられています。